

令和4年度 東久留米市立 第三小学校

学校評価報告書

<p>学校教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ よく考える子 ○ なかよくする子 ○ 元気のよい子 	<p>教育ビジョン</p> <p>【目指す学校像】 ・子供の笑顔あふれる学校 ・保護者・地域から信頼される学校 ・職員が組織力を生かして職務を遂行し、活力みなぎる学校</p> <p>【目指す児童・生徒像】 ・基礎・基本を身に付け、自ら考え、創造力・表現力に富んだ子供 ・すんではいさづがで、自らを律し、他人と協調し合う心豊かな子供 ・基本的な生活習慣を身に付け、心身共に健康で活気に満ちた子供</p> <p>【目指す教師像】 ・学校経営計画実現のために校務分掌組織を活用した活力ある教師集団 ・授業研究を主体とした校内研究の推進による指導力・授業力の向上を図る教師 ・OJT・OFF-JT研修を有効に活用し、課題意識をもって謙虚に自己研鑽に励む教師</p>
<p>前年度までの学校経営上の成果と課題</p> <p>・ICT機器を活用した、授業研究を主体とした校内研究の推進による教師の指導力・授業力の向上が図られた。タブレット端末を活用した表現の機会、思考の機会を授業中に組み込むことができるようになってきている。アナログの読む、書く、話すことの充実を図るために、積極的な活用を今後も図っていく。 ・本校の多くの児童は、「授業がわかる」「授業が楽しい」と感じている。しかし、国や市の学力調査、東京ペーシックドリル診断テストを見ると、学年が進むにつれ平均点が低下し、分散が広がる傾向にある。新型コロナウイルス感染拡大により、様々な学習活動が制約を受け、学習の定着や学習内容をより深く理解させることが困難であったからか。それぞれの教科において更なる結果の分析を行い、全教職員が組織として、わかりやすい授業づくりを推進し、全児童の力を伸ばす取組の充実を図っていく。</p>	

東久留米市第2次教育振興基本計画				中期経営目標 (令和5年度までの3年間)	短期経営目標 (1年間)	評価指標・評価基準		自己評価		学校関係者評価		次年度の方策
No.	四つの柱	基本施策	今年度学校で重点を置く「具体的施策」			取組指標	成果指標	取組	成果	評価	コメント	
1	I 健全育成	個性を認め合う教育の推進	人権教育の推進	・児童による人権週間の取組の充実・改善・定着 ・規範意識を身に付けさせる	・人権作文・人権標語などの指導の充実・徹底 ・人権教育に関わる年間指導計画の確実な実施・改善 ・人権に関わる職員研修の実施	・年2回の人権集会の取組 ・人権作文・標語の取組 ・不適切な指導…0件 ・いじめアンケートによるいじめの早期発見と解決	・人権作文6年生全員の取組 ・人権標語5年生全員の取組 ・いじめや不適切な指導による不登校0 ・人権講話からふわふわ言葉への取組	3.3	3.2	3.3	○この度の校舎整備のための管理が大変だったと思う。狭くなったグラウンドでも、日頃グラウンド横から見える元気いっぱいの子供たちの姿に元気をいただいている。	・本年度以上に年間を通して「ふわふわ言葉」の取組を充実させる。また、児童主体の取組を発信するなど、全教職員で取組の充実を図る。 ・人権集会や代表委員による活動がよかった。さらに、人権感覚を児童にもたせるために人権標語を年間計画に入れて、学年ごとに校内に掲示する。
2	I 健全育成	規範意識や他人への思いやりなど豊かな心を育む教育の推進	規範意識と豊かな人間関係を育む教育	・自尊感情を高め、自他を大切に指導を組織的に行う ・道徳の授業改善に取組む	・特別の教科「道徳」の時間の授業改善と充実 ・道徳授業地区公開講座の充実・意見交換会の工夫	・授業観察における道徳授業 年1回以上	・児童の道徳授業の振り返りノートによる満足度(自己評価と教師による評価)	3.3	3.1	3	○以前は、学校に入ると「こんにちは！」の挨拶で出迎えてくれたのですが、ここからは、コロナのせいか、マスクのせい、「こんにちは」の声が少ないように感じる。	・道徳授業地区公開講座を通して、いじめ防止の取り組みを発信し、保護者の理解・協力を得る。次年度は道徳授業改善において役割演技等々、道徳的価値にせまる学習方法を工夫して、多角的・多面的に考える力をさらに高める。
3	I 健全育成	いじめ問題への対応	いじめ防止対策推進基本方針に基づいた取り組みの推進	・学校いじめ防止基本方針を理解し、いじめを未然に防ぎ、適切な人間関係を築く指導を行い、自尊感情を高める	・いじめに関する授業の工夫 ・いじめ対策委員会で検討し、いじめの未然防止策・早期発見を推進 ・SC、SSWの活用 ・ふれあい月間の活用	・いじめを扱った道徳授業年3回 ・連絡会(毎週金)での情報交換 ・学校いじめ対策委員会 月1回	・いじめ解消…100% ・教育相談活動・体制の充実 ・なかよし班等の異学年集団活動・交流の充実 (児童アンケート結果)	3.2	3.1	3.5	○毎月届けていただく学校だより「かはし」で、子供たちの様子を知ることができて、いい。	・SCの巡回の時間を増やしてもらい、たくさんの子供たちと話す機会をもつ中で、いじめの芽を早期につむ。 ・教科担任制(交換授業)のメリットである「学年で学年の子供たちを見る」というよさを生かした指導を充実させる。 ・学級内の実態として、いじめにつながるような仲間外れや心ない言動がまだ見られる。学校のいじめ対策基本方針に基づいて、教師として率先して児童一人一人のよさを認め、褒めていく。そして児童同士でも、自他ともに尊重し合う雰囲気醸成を進める。
4	I 健全育成	生涯にわたって育む健やかな体づくり	体力向上に関する指導の充実	・積極的に体育やスポーツに親しみ健康増進や体力向上を図る	・体育授業における運動時間の確保 ・休憩時間の外遊びの奨励 ・地域のスポーツ活動活躍の表彰 ・体力調査の分析によるスポーツ週間等の充実	・スポーツ週間(わくわくスポーツ週間)の実施 年3回(1回あたり5日間) ・体力調査の実施	・体力向上の意欲 ・春のわくわくスポーツ週間 ・スポーツテスト(体力向上) …ポイントアップ ・わくわくスポーツの満足度(児童アンケート)	3.1	2.5	3.5	・改修工事が終了したので、指導計画を見直し、方法を工夫し、年間を通して継続的に一人一人の体力作りに取り組む。 ・わくわくスポーツ週間の内容の、より充実を図る。	
5	II 学力向上	確かな学力の育成	各種学力調査の活用	・学力調査の結果分析等により、課題を明確にして立てた授業改善プランを実践し基礎学力の向上に努める	・学力調査の結果を分析し、実効性のある授業改善プランを実践する ・思考力・判断力・表現力を伸ばす授業の工夫・展開 ・学習規律の定着	・授業観察・指導 年3回以上 ・「三小のきまり」の指導と徹底 ・外部研究会への参加全員1回以上	・学力テスト(国・都・市)の本校平均得点(国・都・市の平均以上) ・授業が楽しい・分かる(児童アンケート) ・基礎学力の定着(保護者アンケート)	3.1	3.1	3.3	○コロナ禍でも、先生も児童も一丸となって工夫し、よく頑張っていると思う。5月からの、また新しい展開を期待している。	・授業改善プランに基づく授業改善を図ることができている。また、校内研究を通して、タブレット型端末を活用した表現の機会、思考の機会を授業中に組み込むことができるようになってきている。アナログの読む、書く、話すことの充実を図るために、積極的な活用を今後も図っていく。 ・「さすがに学級は学力調査はないが、一人一人の学力に応じた能力を伸ばす授業を工夫するために、積極的に外部の研修や模範授業に参加する。 ・どの教員も次年度は様々な教科の研究会に参加して、学習方法や取り組みについて見聞を広め、児童一人一人の確かな学力の定着を進める。
6	II 学力向上	確かな学力の育成	基礎的・基本的な学力の定着と学ぶ意欲の向上	・習熟の程度に応じた学習集団の編成と指導の工夫	・学習内容の習熟の程度に応じた指導方法や指導体制を工夫する ・三小寺子屋の実施 ・家庭学習の習慣化を図る	・ベーシックドリル活用 全学級 ・三小寺子屋 各学年年間10回 ・週1回のタブレット端末の使用	・三小寺子屋への積極的な参加 ・参加児童の満足度(児童アンケート) ・かけ算九九検定 ・家庭学習の定着(保護者アンケート)	3.2	3.1	3.5	○掲示物を見ても、子供たちが良い方向に育っているのを感じる。	・4月に学年に応じた計算カテスト(例:かけ算九九の定着度テスト)を行い、その結果をもとに寺子屋や補充指導を行う。 ・家庭学習について校内全教員で共通理解を深める。そして、家庭学習を計画的に行うよう、保護者会や学年だより等を使って、家庭理解を深め、連携する。
7	II 学力向上	確かな学力の育成	ICT機器活用等による多様な指導方法の工夫	・各教科等の指導でICT機器を活用し、分かりやすい授業や児童の学び合いの授業を展開する。 ・デジタル教科書の活用	・情報リテラシーの徹底 ・タブレット型端末の授業での活用 ・校内研究の充実と深化	・2週に1回のTTT(タブレットタイム)の活用 ・情報リテラシーの徹底 ・「書く」活動を重点にして、自己表現する機会を増やしていく。	・教師自身がタブレット型端末を扱うためのスキルをより向上させるためにも、ICT機器の研修を増やす。 ・TTTの時間に、eライブラーで基礎基本ドリルの活用を試みるなど、タブレット型端末を有効に活用する方法を考え、全校で実施していく。 ・三小寺子屋は、上限が10名程度であり、少し人数としては不足している。もう少し、幅広い児童が対象となる手立てを考え行っていく。	3.1	3.1	3	・教師自身がタブレット型端末を扱うためのスキルをより向上させるためにも、ICT機器の研修を増やす。 ・TTTの時間に、eライブラーで基礎基本ドリルの活用を試みるなど、タブレット型端末を有効に活用する方法を考え、全校で実施していく。 ・三小寺子屋は、上限が10名程度であり、少し人数としては不足している。もう少し、幅広い児童が対象となる手立てを考え行っていく。	
8	III 教育環境の整備	特別支援教育の充実	特別支援教育の充実	・特別支援全体会の充実と校内委員会の充実 ・SCやSSW、巡回心理士等との適切な連携を図る	・特別支援理解の講演会実施 ・各学年との交流授業・交流給食の実施 ・特別支援学級・特別支援学校副籍児童との交流 ・SC、SSWの多面的な活用を図る	・特別支援全体会 年4回 ・特別支援理解教育 4年生と必要に応じて ・交流学習 全学年	・利用する児童全員が特別支援学級での学習の目的を理解し、個別支援シートで目指す目標を達成する。 ・交流学習…給食、授業参加	2.9	3	3	○長期にわたるコロナ禍のおり、学校運営の難しさを今年度も感じている。変則的な行事の多い今年度も、先生方の並々ならぬ御努力があったと思う。が、子供たちには、よき思い出となったと思う。	・特別支援教室や固定学級の理解教室を4年だけでなく学年を増やし行っていく。適切な学年で行う。また、ショート集会用を活用し、固定学級が設置されている利点を生かし、支援教育の理解を深める。 ・インクルーシブ教育の啓発を行う。
9	III 教育環境の整備	各学校におけるカリキュラム・マネジメントの推進	児童・生徒の主体的な取組	・「深い学び」の実現に向けて、各教科等の特質に応じた「見方考え方」を働かせるようにする ・学校生活のあらゆる場面で豊かに話す活動を定着し、主体的なコミュニケーション力の育成を図っていく。	・ねらいや目標を達成することを意識した単元計画や教材研究を推進する。 ・個別に対話したり、自分の考えを纏ったりするなど、全員が自分らしく表現できる活動を設定する	・「めあて・課題・まとめ・ふり返し」を毎時間位置付ける授業を実践する。	・授業の最後に学びを振り返る。 ・子供同士、教職員、地域の人等、たくさんの人と会話をする(児童アンケート)	3.1	3	3	・思考力の育成に特化した授業を1学期1回は実施する。また、ICTの効果的な活用実践を校内研究をもとに、情報を共有する。	
10	III 教育環境の整備	安全・安心な学校づくり	地域や外部人材を生かした体験活動の充実	・地域の方、保護者など、専門的な人材を授業で活用する。 ・地域を愛するとともに、人のかかわりを大切にする児童の育成に努める。	・各教科や総合的な学習の時間等で、地域と連携した活動を充実させる。 ・地域の教材化を図り、問題解決的な学習を展開する。	・各学年外部からの人材を、年間2回以上招聘する。	・地域の良さを調べる。調べ、まとめる。 ・他学年への成果発表会 ・体験活動の振り返りによる満足度(児童アンケート)	3.2	3	3.3	・地域人材活用の一覧表をより充実させデータで保存し、学年・時期に合った人材をより手軽に見つけ活用できるようにする。 ・コロナ禍でも、柳窪小麦の体験授業を工夫して実施できた。どの学年においても、継続的な関わりができる外部人材を残していきたい。一層工夫して行っていく。 ・地域の特色や人材を生かした学習活動を年2回以上取り入れる。	
11	III 教育環境の整備	各学校におけるカリキュラム・マネジメントの推進	教員の授業改善、指導力の向上の推進	ライフ・ワーク・バランスに対しての満足度を80%以上にする。	教員自身が「働き方改革」を意識できるようにする。	・定時退庁日を設ける ・週の平均労働時間を60時間以内にする	満足・おおむね満足が 4:75%以上 3:60%以上 2:40%以上 1:40%未満	2.5	2.5	3.5	・定時退庁日の徹底 早く帰る習慣を身に付けたり、業務の効率化を図る。 ・全体的に以前より遅くまで残る教員は減った。今後も、仕事量の削減を抜本的に行う必要がある。SSSの活用や、電子化における効率化を、さらに進めていく。また、行事の見直しもしていく。 ・学校全体で動いていこうときに早めに全体の流れを示したり、おおまかなことは決めたりして、組織的に動いていけるようにする。 ・公務分掌の仕事内容をもう少しスリム化する。	